

東京都防災会議議事録

- 1 日 時
令和元年7月19日（金）15:30～16:15
- 2 会 場
東京都庁第1本庁舎7階 庁議室
- 3 出席委員
別表のとおり 計66名
- 4 議 事（会議における発言内容は別紙のとおり）
 - （1）「東京都地域防災計画 震災編」（令和元年修正）の決定について：承認
 - （2）「東京都地域防災計画 風水害編」等の修正について：報告
 - （3）「東京マイ・タイムライン」について：報告
 - （4）帰宅困難者の「一斉帰宅の抑制」に関する普及啓発動画について：報告
- 5 配布資料
 - ・資料1 「東京都地域防災計画 震災編」（令和元年修正）本冊
 - ・資料2 「東京マイ・タイムライン」キット

事務局
(古賀防災計画
担当部長)

ただいまから東京都防災会議を開催いたします。議事に入るまでの間、司会進行を務めさせていただきます総務局防災計画担当部長の古賀でございます。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、議事に先立ちまして、東京都防災会議会長の小池知事からご挨拶を申し上げます。

防災会議会長
(小池知事)

皆さん、こんにちは。東京都知事小池でございます。座ったままで失礼いたします。

皆様、近年災害が全国で頻発、そして激甚化していることはご承知のとおりでございます。そしてまた、東京に、いつ、どんな災害がやってくるかわからない。いつ起こっても不思議ではない状況かと思えます。知事に就任いたしましたから、ハード、そしてソフト、両面から防災対策を進めてまいりました。そして、昨年実施をいたしました防災事業の緊急総点検を通じまして、タイムラインの普及拡大、これは後で説明があるかと思えますけれども、普及拡大や調節池の加速的な整備など、対策をまず急がねばならないことを優先的に進め、そしてまた重点的に推進してきたところでございます。

都の防災対策の根幹を定める組織がこの会議で、学識経験者の皆様や、自主防災組織でご活躍されている方々の知識、そしてまた、知見を活用させていただくべく、外部委員の増員をさせていただいたところでございます。このたび、就任をされました石井委員、貴家委員、どうぞよろしくお願いたします。

本日は、昨年から進めてまいった地域防災計画の(震災編)の修正案がまとまりました。後ほどご報告をして、皆様方の承認を得て、決定とまいりたいと考えております。

あわせて、都の最近の取り組みでございますが、地域防災計画の(震災編)に続いて、(風水害編)の修正に着手をいたしております、先ほどもご紹介しましたが、この概要報告とともに「東京マイ・タイムライン」の作成キットを紹介をさせていただきます。

東京2020大会後も見据えまして、セーフシティを実現するため、防災対策の充実・強化を図ってきてございます。さらに、対策を実効性あるものにしていくためにも、本日、お集まりの関係機関との連携強化が重要でございます。

なお、私、幼少期にはガールスカウトにありまして、そのときのモットーが「備えよ、常に」でございました。まさしく防災というのは、「備えよ、常に」の精神が何よりも必要、かつ、災害の種類が大変、多様化してございます。それから激甚化している、これまでの想定を超えるものが多くなっております。これらのことを踏まえ、本日も東京都防災会議の皆様方のさまざまなご意見を得て、充実したものと

なるようお願い申し上げます、冒頭のご挨拶とさせていただきます。よろしく
お願いいたします。

事務局
(古賀防災計画
担当部長)

ここで知事は次の予定がございますので、退席をさせていただきます。

防災会議会長
(小池知事)

どうぞよろしくお願いいたします。

(小池知事退席)

事務局
(古賀防災計画
担当部長)

それでは、ここからの議事の進行につきまして、多羅尾副知事にお願いいたしま
す。

多羅尾副知事

多羅尾でございます。それでは、議事に従って進めてまいります。

先ほど、知事のお話にもございましたが、今回から2名の方が新しく委員に就任
されております。この場をお借りして、ご紹介をさせていただくとともに、お二人
より一言ずつ頂戴できればと考えております。

それでは、国際医療福祉大学大学院教授、石井美恵子委員でございます。お願い
いたします。

石井委員

皆さん、はじめまして、石井でございます。今、大学院の修士課程で災害医療を
専門とする、後進を育成しようということで取り組んでおります。私は、もともと
は25年前から災害の国際支援が中心でしたが、救急医療支援にずっと携わってい
て、東日本大震災以降、国内での活動も始めております。

今、主なテーマはもちろん急性期医療、救命救急医療も大事ですけれども、やは
り震災関連死ということが大きな課題となっておりますので、避難所対策、仮設住
宅対策、そして、さらに言うならば、きめ細やかな対策をするために、やはり女性
の力が必要かと思っておりますので、そういったことを、これまでの経験を踏まえ
て、この会議でも、少しでもお役に立てればと思っております。どうぞよろしくお
願いいたします。

多羅尾副知事

ありがとうございます。

続いて、八王子市立愛宕小学校学校運営協議会会長、貴家由美子委員でございま
す。よろしくお願いいたします。

貴家委員

ただいまご紹介にあずかりました貴家と申します。よろしくお願ひいたします。

私は地域防災活動において、小学校や中学校の保護者が中心となって、女性の視点から地域を巻き込む防災ワークショップというのを実施しております。この活動は、東京都防災隣組に加盟、認定していただいております、さらに首都大学東京の市古教授とともに研究を重ねながら、進めさせていただいております。

私が所属している愛宕小学校では、夏休みに「防災と言わないキャンプ」と銘打って、親子で学校に宿泊しながら避難所体験をし、実際に災害が起きたときに核となって動ける人を育成しています。こちらには、卒業した中学生や高校生、防災に興味のある大学生や、地域の住民も一緒に活動しています。

このような知識で申しわけございませんが、皆様と一緒に防災について学ばせていただけたらと思います。よろしくお願ひいたします。

多羅尾副知事

ありがとうございました。それでは、この防災対策についての幅広い知識やご経験を積まれた知見を、東京都の防災対応力の強化に活用させていただきたいと考えております。

続いて、「東京都地域防災計画 震災編」（令和元年修正）について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局

（古賀防災計画
担当部長）

それでは、ご説明いたします。お手元のタブレット、もしくは前面のモニターをごらんください。初めにパブリックコメントの実施状況についてご報告をいたします。

去る5月16日に東京都防災会議幹事会におきまして、地域防災計画（震災編）の修正素案を発議いたしまして、公表と同時にパブリックコメントを実施して、都民の皆様から意見を募集いたしました。全体で4通、4件のご意見をいただきました。意見の概要と、意見に対する都の考え方は3の（2）のとおりでございます。

都民の皆様からのパブリックコメントを踏まえまして、修正素案における船舶の確保に関する内容につきまして、水上バスの記載を追記いたしました。その他、修正素案を大きく変更する必要がある意見はございませんでした。

それでは、今回の修正素案の概要を改めて説明させていただきます。

まず、今回の修正の背景、目的でございますが、近年、全国各地で発生した大地震の教訓等の具体化をはじめといたしまして、女性視点の防災対策の推進、増加する訪都外国人への対応、防災まちづくりやICT等、新技術の進展など、震災対策を取り巻く最新の動向を踏まえた取り組みを地域防災計画に反映するとともに、東京2020大会を見据え、震災対策の実効性をより一層向上させるため修正するものでございます。

次に、主な反映内容でございます。重点的に取り組む施策について、3つの視点を掲げておまして、それぞれ、昨年の防災事業の緊急総点検を踏まえた新たな取

り組みの反映と、今後、さらなる充実・強化を図る取り組みがございます。

まず1つ目の、女性・外国人等要配慮者の視点でございますが、新たな取り組みとして、災害時に避難所ともなる公立学校の屋内体育施設における空調設置の支援や、乳児用液体ミルクの調達・提供などを反映しております。一方、東京都防災アプリ等を活用した災害情報の多言語配信など、外国人が必要な情報を得られる仕組みづくりや、女性視点の防災ブック「東京くらし防災」等を踏まえた普及啓発など、女性の防災への参画を一層促す施策も推進してまいります。

次に2つ目の近年地震の教訓を具体化する視点でございます。平成28年熊本地震や、昨年大阪府北部の地震、北海道胆振東部地震など、近年発生した大きな地震から図らずも得られた教訓を踏まえた取り組みを反映しております。主な対策としましては、地震発生時の応急対策拠点となる区市町村庁舎の非常用電源設置等の支援や、公立学校や私立学校等における安全性に課題のあるブロック塀の安全対策の支援に取り組んでまいります。

次に、3つ目の地震に強いまちづくりの視点です。都民一人一人の防災意識の向上は大変重要でございます。仮想現実（VR）機能を活用した防火防災訓練など、都民や地域の災害対応力の向上をさらに促す取り組みを反映しております。また、道路閉塞の予防と停電の防止に効果がある無電柱化につきましても、都道における取り組みを引き続き進めていくとともに、区市町村への支援も強化してまいります。

以上が主な修正の内容でございますが、詳細についてはお手元配付の資料第1「東京都地域防災計画 震災編」（令和元年修正）の本冊をごらんいただきたいと思っております。

説明は以上でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

多羅尾副知事

ただいまの説明につきまして、ご質問などがございましたら、ご発言をお願いいたします。

よろしいでしょうか。それでは、特にないようですので、「東京都地域防災計画 震災編」（令和元年修正）につきましては、東京都防災会議として承認いたしたいと存じますが、ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

ありがとうございました。それでは、東京都防災会議として決定することといたします。防災会議の委員の皆様をはじめ、検討部会の委員の方々及び実務担当者の皆様には、お忙しい中、計画修正にご協力くださったことを、心から感謝を申し上げます。

続きまして、報告事項について事務局より報告をお願いいたします。

事務局
(古賀防災計画
担当部長)

1点目の東京都地域防災計画（風水害編）等の修正について報告いたします。
ただいま、東京都地域防災計画（震災編）の承認をいただきましたが、引き続き、風水害編についても修正していくことといたしますので、改めて概要をご説明させていただきます。

まず修正方針ですが、（風水害編）では平成26年7月に世界的に多発する大規模水害の発生リスクや、大島での災害の教訓を踏まえた修正を行いまして以降、全国各地で発生した大規模な災害を受けまして、地域防災計画（風水害編）の根拠の1つとなる水防法が改正されております。こうした風水害対策を取り巻く状況が変化している中、昨年、平成30年7月の豪雨の教訓を踏まえ、防災事業の緊急総点検を実施いたしまして、新たな取り組みに着手しているところでございます。

さらに、昨年の6月から内閣府と共同開催しております、首都圏における大規模水害広域避難検討会におきまして、大規模河川の洪水や、高潮による人的被害軽減の検討を進めております。

次に、修正の進め方でございますが、このような風水害対策を取り巻く状況の変化を踏まえつつ、予防から応急、復旧までの対策の実効性をさらに向上させるため、次の2つの視点を踏まえた対策を重点的に推進し、地域防災計画へ積極的に反映させていきたいと考えております。

1点目でございます。「逃げ遅れゼロ」実現に向けた多様な連携体制の構築でございます。2点目が関係法令等改正への対応でございます。

1点目の「逃げ遅れゼロ」に向けましては、大規模河川の洪水や高潮による氾濫時の広域避難に対する取り組みの推進につきまして、検討会の結果を反映するとともに、区市町村が発災を前提として、いつ、誰が、何をしなければならないのかを記したタイムライン及び住民が発災までにしなければならない行動のマイ・タイムラインの普及拡大についても記載しております。

関係法令等改正への対応については、水防法改正に伴う想定し得る最大規模の降雨への対応など、前回修正時から改正された水防法や、土砂災害対策防止法などの関係法令を反映して、対策の強化、充実を図ってまいります。

なお、こちらのスライドの下の方、米印のところがございますとおり、地域防災計画の大規模事故編は2009年、原子力災害編は2012年にそれぞれ修正を実施しておりますが、それ以降に発生しました災害から得られた教訓や関係法令の改正に伴って今回、風水害編とあわせて各編の修正を行ってまいりたいと考えております。

今後の予定といたしましては、現在、既に各関係機関に対して修正を依頼しておりまして、今後いただくご意見を反映した上で、年度末までに修正案を固めてまいります。その後、来年度当初に本会議幹事会に修正素案を提案いたしまして、さらにパブリックコメントを実施した後、来年度前半には、こちらの本会議にて計画の承認を得たいと考えてございます。

風水害編等の修正についての報告は以上でございます。

続いて、2点目の「東京マイ・タイムライン」についてご報告いたします。モニター、もしくはタブレット画面をごらんいただきたいと思います。

東京都ではこのたび、都民が水害からの避難を考えるキットとして、「東京マイ・タイムライン」の作成をしております。本日、お手元にはキットの一式をご用意させていただいております。この中には、都民の皆様実際に作成いただくマイ・タイムラインシート、そのシートに張り付ける行動シール、作成を行うためのガイドブックが入っております。

お手元の画面の、次の画面をごらんいただきたいと思います。

この「東京マイ・タイムライン」の特徴は3点ございます。まず1つ目が、小学生から大人まで、幅広い世代を対象にしているということ。2つ目が都内各地で起こり得る風水害への対応など、地域特性に応じた作成が可能となっていること。3つ目は、多くの方が容易に作成できるように配慮していることが挙げられます。

それでは、実際に委員の皆様方、お手元のキットをお開きいただければと思います。中に入っている、実際に作成していただくシートでございますが、見開きの、広げるとA3判になるシートでございます。こちらが、3パターンご用意しております。台風の接近、紫色の枠で囲った部分ですね、台風の接近。その裏の緑色のほうが、長引く大雨。そして、もう1部、短時間の急激な豪雨ということで、いわゆるゲリラ豪雨。それぞれの地域で発生が想定される気象状況に応じてとるべき行動をシールに記載し、張り付けることができるようになっています。また、短時間豪雨のシートの裏面には、必要な情報としまして、水害発生時に必要となる情報につき簡単に入手できるシートもご用意しております。

また、こちらのシートを作成するためのガイドブックもご用意しております。青い冊子でございます。まず表紙をおめくりいただくと目次がございます。内容として、大きく分けて、前段ではまず風水害について、それから、後段ではそれを踏まえてマイ・タイムラインをつくるという2つの構成となっております。

こちらの6ページをごらんいただきたいと思います。こちらは東京で起こりやすい風水害として、河川の氾濫、土砂災害、それから高潮の3種類を対象としまして、次ページ以降でそれぞれの特徴などを簡単に紹介しております。

少し飛びますが、21ページをごらんください。

こちらでは、マイ・タイムラインをつくるに当たり、ポイントを挙げております。1つは、避難のための情報を取得する。2つ目が、避難の情報や開始のタイミングを考えておくということでございます。次ページ以降では、お住まいの地域のハザードマップの確認、避難の判断に必要な情報の確認、入手方法などを紹介しております。一人一人が、みずからの置かれている状況を踏まえたマイ・タイムラインが作成できるようになっております。また、自分や家族はもとより、地域の方々の助け合いなども記載できるようになっております。

以上がガイドブックのご案内でございます。それでは、お手元の画面にお戻りをいただきたいと思ひます。

「東京マイ・タイムライン」につきましては、より多くの方々が取り組めるよう、スマートフォンやパソコンからも作成、保存することができるデジタル版もあわせて作成してありまして、東京都防災ホームページで配信をしております。

次の画面になりますが、東京都では事前の備えや災害時に役立つコンテンツを盛り込んだ東京都防災アプリを展開しております。その中に、それぞれの地域で想定される河川や高潮の浸水想定、土砂災害警戒区域などのリスクをGPSと連動して確認できる水害リスクマップを新たに搭載しております。ぜひ、「東京マイ・タイムライン」の作成、外出先での水害リスクの確認などにもご活用いただければと思ひます。

今後、この「東京マイ・タイムライン」などを活用しまして、風水害に関する普及啓発をさまざまな取り組みを通じて展開していきたいと考えておりますので、引き続き、皆様のご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたひます。

説明は以上でございます。

そして、ここで今回、貴家委員から、実際に「東京マイ・タイムライン」を使ったご感想をいただきたいと思ひますので、貴家委員、どうぞよろしくお願いいたひます。

貴家委員

よろしくお願いいたひます。私のほうでは、小学校に実際にいただきましたマイ・タイムラインを、授業でどのように活用されたのかというのを先生にお伺ひし、実際に45分間の授業の中で、これとはまた違つた、小学生に向けたワークブックが入つていて、それに沿つてやることで、どうやつて避難をしたらいいのか、1年生でも考えることができるような工夫をしていただひており、とても授業がしやすかつたと思ひを聞いております。

さらに、私が取材している防災ワークショップのほうでは、小学校、中学校、高校のお子さんがいらつしやる保護者の方々に実際にやつていただき、感想を伺つてきました。今まで防災というと、予知できない地震のことばかり考えていたんですけども、予知できる水災害のことについて改めて考えるチャンスとなりました。

今回、こちらのほうに必要な情報の二次元バーコードというのでも記載していただいたことで、ほかにもいろいろな情報を個人としてゲットできるということがわかり、ぜひ家庭で活用したいというお話を伺つています。今、小学校や中学校のほうでは防災教育というのを学校の方で実施してあり、それを持ち帰つて家庭で話し合うことで、家庭でも防災について話し合う機会を多く取り入れるようになってきています。私が住んでいる愛宕地区では、津波とかはないんですけども、どんなに地盤が固くても、例えばこちらの12ページのほうに載せていただきましたけれども、実際に平成20年の8月の豪雨では、八王子市でも土砂災害が起きておりまし

て、実際に、自分の住んでいる周りでも土砂災害が起きる可能性もあるということで、ハザードマップを出して一緒に親子で見たりとか、この地区の周りでもどんなに危険なことがあるのか。また、マンションに住んでいる方で、集合住宅のエレベーターの機械の中に水が入ってしまって、エレベーターが動かなくなったり、電気が動かなくなったりするのではないかという、いろいろな、地域によって想定も考えられてきていました。なので、水平避難だけでなく、垂直避難についても考えるチャンスとなったと思っていますし、自分が住んでいる家やマンション、集合住宅についても、一緒に考えるような機会にこれはなっていると思います。

またPTAの方に関しては、ぜひワークショップをしていただけたらありがたいというお話を伺っていますので、東京都防災隣組のメンバーなどを活用し、今後、ワークショップなどを開いていただけたらと思います。以上です。

事務局
(古賀防災計画
担当部長)

どうもありがとうございます。最後、お話しいただきました件も含めて、東京都といたしましても今後、マイ・タイムラインの作成のための講習会、こういったことを地域に出向いて実施していく予定でございます。

より多くの都民の皆様に活用していただけますように、本日いただいた貴重なご意見を踏まえまして、より一層の普及拡大に向けた取り組みを進めてまいりたいと思います。ありがとうございました。

事務局
(榎園防災対策
担当部長)

続きまして、帰宅困難者対策について説明させていただきます。お手元のタブレットかモニターをごらんいただきたいと。

首都直下地震等による東京の被害想定では、都内で517万人の帰宅困難者が発生すると想定しております。大量の帰宅困難者が一斉に帰宅を始めれば、救助、救命活動に支障を来す上、帰宅を試みる本人も、余震等で二次被害に遭う可能性がございます。そのため、都は平成24年3月、帰宅困難者対策条例を制定いたしまして、都知事、事業者、都民それぞれの責任を規定しまして、一斉帰宅の抑制を推進しているところでございます。本年2月にはより一層効果的に普及啓発を進めるため、一般の方向け、事業者向け、外国人向けの3種類の5分前後の動画を作成しまして、東京都などのサイトですとかYouTubeで公開しております。

これから皆様に、実際に動画をごらんいただきますが、こちらは一般の方向けに一斉帰宅の抑制を普及啓発するために作成した動画でございます。

なお、外国人向け動画につきましては、2020大会に向け15秒バージョンも作成し、空港アクセス路線の車内サイネージにおいて、通年で放映しております。

それでは、一般向けの動画をごらんください。

(動画放映)

ご視聴ありがとうございました。最後になりますが、本日ご出席の関係機関の皆様におかれましても、これらの動画を活用していただきまして、職員やクライアン

ト様への普及啓発にご協力をいただきましたら幸いです。
報告は以上でございます。

多羅尾副知事

ただいまの事務局からの報告につきまして、ご質問、ご意見などあればお願いをいたします。どうぞ、重川委員。

重川委員

ありがとうございます。常葉大学、重川と申します。説明、いろいろありがとうございました。ちょっと戻るんですが、震災編の地域防災計画も、非常に充実した、しっかりしたものをおまとめいただいて、大変ご苦労だったと思います。ご苦労さまでした。

その中で少し気になったのは、都民からの意見募集をかけたら4件、ご意見があって、率直に言うとうそごく、これだけのものを考えていただいているのに、非常に少ないなという、少し寂しい気がいたしております。

資料にもございますとおり、東京都地域防災計画というのは、東京都の防災会議が策定し、東京都の防災会議には地域で活躍されている代表の方も入っていらっしゃる。だから、東京都地域防災計画というのは、「東京都庁」地域防災計画ではなく、「東京都民」あるいは「東京の事業者」をあわせた、本来、防災計画であるべきだと思います。

今回、水害対策編を見直されるということで、地震よりも都民にとっては非常に発生頻度の高い、身近な災害ですので、やはり、その防災計画をつくっていくのは、行政だけにお任せをして、あるいは、行政だけが何をするのではなく、やっぱり都民を含めて、何をしていくのかということ、もうちょっと盛り込み、それから、地域防災計画の存在そのものをですね、もっと都民も知るべきではないでしょうか。現に、この震災編の33ページには「都民の責務」というのがきちんと書かれています。こういうことを知っている都民の方は、おそらく非常に少ない。生活再建とか復興全て、実は主体となるのは都民自身ですので、もっと都民が目を通すとか、事前に知るとかですね、触れる機会を増やしていくことで、地域防災計画そのものを充実させることの実効性が上がっていくのではないかと思いますので、意見だけさせていただきます。

多羅尾副知事

ありがとうございました。ただいまのご意見につきまして、何か事務局からコメントはありますでしょうか。

事務局
(古賀防災計画
担当部長)

貴重なご意見、どうもありがとうございます。我々といたしましても、さまざまな機会を捉え、今日ご出席をいただいている関係機関の皆様方のご協力をいただきまして、今回の計画を策定してきているというふうに考えております。

ただ、やはりご指摘いただきましたとおり、一般の都民の方に対しても普及啓発

に努めておりますけども、まだまだやっぱり十分でないというところで、全てあげて、受けとめていただけるのではないかと思いますので、そういった点については、さらに今後とも努力をしていきまして、より多くの方々に関心をもってもらって、震災対策について、一人一人が考えていけるような、そういった努力を我々も引き続きやっていきたいと思っております。

どうもありがとうございました。

多羅尾副知事

都民ご自身の防災計画という基本的なスタンスのもと、作成のプロセスにおいても、都民の方の意見をもっとたくさん聞かせていただくような努力もしてまいりたいと思っております。よろしく願いいたします。

ほかにご意見、ご質問等ございますでしょうか。

(意見等なし)

よろしいでしょうか。それでは以上で、予定の議事は全て終了いたしました。それでは、進行を事務局にお返しいたします。

事務局

(古賀防災計画
担当部長)

本日配付した資料につきましては、本日これ以降、いずれもホームページに掲載いたしますので、持ち帰りを希望されない方はそのままお帰りになられても結構でございます。

これをもちまして、東京都防災会議を終了いたします。本日はまことにありがとうございました。

以上

別表

機関区分	No.	委員職名	委員氏名	出欠
指定地方行政機関	1	関東総合通信局長	黒瀬 泰平	出席
	2	関東財務局東京財務事務所長	加藤 博紀	出席
	3	関東信越厚生局長	池田 千絵子	欠席
	4	東京労働局長	前田 芳延	出席
	5	関東農政局地方参事官(東京都担当)	加藤 勝	出席
	6	関東森林管理局長	齋藤 伸郎	出席
	7	関東経済産業局総務企画部長	佐竹 佳典	出席
	8	関東東北産業保安監督部長	白井 基晴	出席
	9	関東地方整備局長	石原 康弘	出席
	10	関東運輸局長	掛江 浩一郎	出席
	11	東京航空局東京空港事務所東京国際空港長	森本 園子	出席
	12	東京管区気象台長	眞鍋 輝子	出席
	13	東京海上保安部長	山田 昌弘	出席
	14	関東地方測量部長	乙井 康成	出席
	15	関東地方環境事務所長	牧谷 邦昭	欠席
	16	北関東防衛局長	松田 尚久	欠席
自衛隊	1	陸上自衛隊第1師団長	竹本 竜司	出席
教育長	1	教育長	藤田 裕司	出席
警視総監	1	警視総監	三浦 正充	出席
都の職員	1	副知事	長谷川 明	出席
	2	副知事	多羅尾 光睦	出席
	3	副知事	梶原 洋	出席
	4	東京都技監(都市整備局長兼務)	佐藤 伸朗	出席
	5	政策企画局長	山手 斉	出席
	6	都民安全推進本部長	大澤 裕之	出席
	7	戦略政策情報推進本部長	松下 隆弘	出席
	8	総務局長	遠藤 雅彦	出席
	9	危機管理監	小林 茂	出席
	10	財務局長	武市 敬	出席
	11	主税局長	塩見 清仁	出席
	12	生活文化局長	浜 佳葉子	出席
	13	オリンピック・パラリンピック準備局長	潮田 勉	出席
	14	環境局長	和賀井 克夫	出席
	15	住宅政策本部長	榎本 雅人	出席
	16	福祉保健局長	内藤 淳	出席
	17	病院経営本部長	堤 雅史	出席
	18	産業労働局長	村松 明典	出席

機関区分	No.	委員職名	委員氏名	出欠
都の職員	19	中央卸売市場長	黒沼 靖	出席
	20	建設局長	三浦 隆	出席
	21	港湾局長	古谷 ひろみ	出席
	22	会計管理局長	佐藤 敦	出席
	23	交通局長	土淵 裕	出席
	24	水道局長	中嶋 正宏	出席
	25	下水道局長	和賀井 克夫	出席
	区市町村長及び消防長	1	板橋区長	坂本 健
2		武蔵村山市長	藤野 勝	出席
3		三宅村長	櫻田 昭正	出席
4		消防総監	安藤 俊雄	出席
5		(一社)東京都消防協会会長	沖山 仁	出席
指定公共機関	1	日本郵便(株)常務執行役員東京支社長	立林 理	出席
	2	日本銀行決済機構局長	木村 武	出席
	3	日本赤十字社東京都支部事務局長	中川原 米俊	出席
	4	日本放送協会首都圏放送センター長	中嶋 太一	出席
	5	中日本高速道路(株)八王子支社長	湯川 保之	出席
	6	首都高速道路(株)保全・交通部長	菅原 聡	出席
	7	(独)水資源機構 危機管理監	益山 高幸	出席
	8	東日本旅客鉄道(株)執行役員鉄道事業本部安全企画部長	松橋 賢一	出席
	9	東日本電信電話(株)東京事業部設備部長	茂野 伸夫	出席
	10	東京瓦斯(株)防災・供給部長	今井 朋男	出席
	11	日本通運(株)執行役員首都圏支店長	加藤 憲治	出席
	12	東京電力ホールディングス(株)総務・法務室長	川西 哲	出席
	13	KDDI(株)技術統括本部 運用本部 運用管理部 特別通信対策室長	淵上 英彦	出席
指定地方公共機関	14	東武鉄道(株)鉄道事業本部安全推進部長	古田 尚	出席
	15	東海汽船(株)総務部長	倉崎 嘉典	出席
	16	東京都庁輸送事業協同組合理事長	古屋 芳彦	出席
	17	(公社)東京都医師会会長	尾崎 治夫	欠席
	18	(株)ニッポン放送コンテンツプランニング局報道部長	桜井 達也	出席
	19	(株)フジテレビジョン報道局経済部長	山田 博	欠席
経学識者	20	常葉大学社会環境学部教授/常葉大学院環境防災研究科研究科長	重川 希志依	出席
	21	(公財)市民防災研究所理事	池上 三喜子	出席
	22	国際福祉大学大学院 保健医療学 災害医療分野教授	石井 美恵子	出席
	23	八王子市立愛宕小学校 学校運営協議会会長	貴家 由美子	出席

※出席者には代理出席も含まれます。